

学校法人立命館 立命館大学

1. 整備組織名 知的財産本部

2. 大学からの報告

(1) 当初計画（大学知的財産本部整備事業）

理工系の研究機関が集結しているびわこ・くさつキャンパス（滋賀県草津市）に副学長を本部長とする「立命館大学知的財産本部」を設置する。知的財産本部は衣笠キャンパス（京都市）を含む全学の知的財産管理・活用業務を統括する。また、大学全体に関わる知的財産戦略の企画・立案を行うとともに、有効な知的財産の創出および活用を促進するため、全学的な研究政策や各研究機関における研究戦略、大規模プロジェクトのマネジメントにも積極的に関与する。

知的財産本部の実行体制として「知的財産戦略推進室」をリエゾンオフィス内に設置し、リエゾンスタッフとの強力な連携のもと、日常的な研究シーズ把握活動、産学官連携のネットワーク、さらにはプロジェクトメイキングのノウハウを最大限活用し、知的シーズの創出・管理から、その活用による産学官連携・技術移転、ベンチャーおよび新事業の創出までの「ワンストップ支援体制」を実現する。

(2) 自己評価

知的財産本部の設立に際しては、①知的財産活動と産学官連携活動（リエゾン活動）の一体化、②学内外での「ワンストップサービス」を目標に掲げ、これを実現した。

具体的には、「私立・地方」大学として自立かつ持続可能な活動を行うため、学費を原資とした経費負担を抑え、効率よく知的財産を活用することを指向した。大学の教育・研究活動を高度化させるためには、知的財産活動に立脚した産学官連携活動が最も効果的な方策であると位置づけ、①知的財産を活用した共同研究、委託研究の実施、②知的財産と産学官連携に通じたスタッフの育成を行った。これらにより、知的財産の活用が新たな産学官連携活動を創出する好循環型の研究マネジメント体制を確立した。また、平成19年度には研究のグローバル化にも対応し、海外ネットワークの構築や国際法務への対応など国際展開機能を整備し「グローバル・ワンストップ支援体制」構築の礎とした。

3. 審査・評価小委員会における評価

<評定要素>（平均点）

① 3.6点	② 2.8点	③ 3.1点	④ 2.6点	⑤ 3.1点
--------	--------	--------	--------	--------

<コメント>

明確なコンセプトを掲げて知的財産と産学官連携関係の組織の一体化やワンストップサービス体制を構築した。特に、国際展開に当たり、国際産学官連携アドバイザリー・ボードを組み込んでいる点や、テクノプロデューサーと名称化しインセンティブを与えた、知財人材育成に関する独自の研修プログラムの開発と、そのテクノプロデューサーによる研究シーズの発掘から事業化までのワンストップサービスを担う活躍は評価できる。

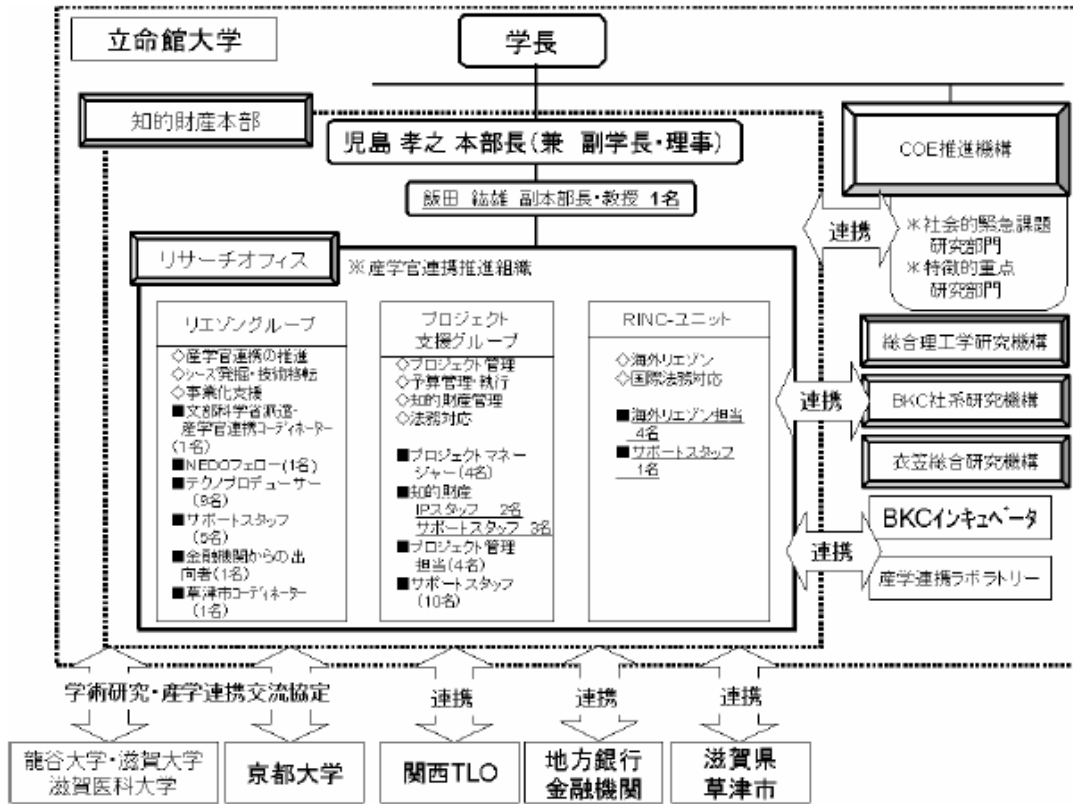
ただし、特許取得件数やライセンス等収入、また共同研究受入件数実績は必ずしも増加傾向でなく、改めてその現場、実施体制のチェックも含めて改善策の構築が課題となる。

また、実施許諾によるライセンス等収入と有償譲渡のどちらを採用したほうが良いかの判断には、TLOを効率的に活用することも考えられる。

今後は、地域連携と事業化推進の有機的・実効的な取組を通して、改めて大学発地域イノベーション創出への課題抽出と大学としての人的・財源面での支援体制の構築を行うことを期待する。

立命館大学

◎事業終了時の体制図（平成 20 年 3 月時点）



◎成果事例

データマイニングを用いたWWWサービス支援システムの開発

大学等名 立命館大学
知財本部名 立命館大学知的財産本部

要約

2004年度、公的研究資金を活用した研究成果である大規模2値疎行列から密部分行列を抽出する方法を開発。大学知的財産本部が研究者より発明の届けを受け審査した末、特許を受ける権利を機関（大学）にて承継、特許出願して保護。2005年度、共同研究企業である株式会社ドリコムに特許を受ける権利を譲渡し、同社が製品化。この過程において知的財産本部が機関窓口となり、共同研究の成果が正当に評価され同社を通じて社会活用されることに結びついた。

HP上のニュース&ブログ検索エンジン

News&Blog Search

大規模2値疎行列から、より密な部分行列を高速に抽出するアルゴリズム

創出

産学官連携のきっかけ（マッチング）

2002年度、新技術の創出を視野に入れ、株式会社ドリコム代表取締役が参加する共同研究（データマイニングプロジェクト）が「大学等発ベンチャー創出支援制度」（文部科学省、JST、研究代表者：立命館大学情報理工学部・小柳 滋教授）に申請、採択。

共同研究

2002年度「大学等発ベンチャー創出支援制度」での採択を受け、共同研究を実施。

管理

知財管理（特許化、知財保護）

●特許出願：国内 1件
「密度が高い部分行列データをコンピュータによって抽出する方法、そのコンピュータシステム及びコンピュータプログラム」

活用

技術移転の概要

●社会への貢献
本学情報理工学部・小柳 滋教授のデータマイニング技術、マトリクスクラスタリング（データ内に存在する単語、要素などの共通点により関連するデータを高速に見つける）などのシーズが活用され、コンテンツの関連づけ、検索のパーソナライズ機能をドリコム検索エンジン上で実現。その後、広告マッチングシステムへと展開された。ユーザーの行動履歴より自動的にパーソナライズし、利用者のニーズに応じた検索やリコメンデーション、利用者の記述したBLOGの内容にマッチした広告の掲載をリアルタイムで行うことができる。
この検索技術は日経新聞にもグーグルに対抗する日本発の検索技術として掲載され、「ドリコム、ニュースとブログの検索サービスを開始—グーグルニュースの日本語版となるか」と報道されるに至った。（2004/06/23CNETJapan）

連携機関

- 立命館大学総合理工学研究機構 上原子 正利
- 株式会社ドリコム
- 株式会社ドリコムテック

受賞歴

- 2005年度渡辺三彦発明賞 受賞（立命館大学内制度）

実施料等収入の種別

譲渡対価

実施料等収入（累計）

非公開